公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年10月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・1
（特集・ツバメのねぐら入り観察会②）
◆2016年「全国ツバメのねぐら入り観察会」報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◆愛知県支部からの情報・・・・・・・・・・4
「探鳥会案内人や支部役員の人材確保について」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・5
（2016年８月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・7
・お待たせしました！「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の募集を開始します
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記（特集・ツバメのねぐら入り観察会②）

９月号に続き、この夏参加した「ツバメのねぐら入り観察会」の様子を紹介します。

河北潟ツバメのねぐら入り観察会（日本野鳥の会石川）

【日時】2016年８月20日（土）
　　18時～20時
【場所】河北潟・東部承水路左岸
　　（石川県河北郡津幡町）
【天候】晴れ
【参加者】57名（うち非会員37名）
【リーダー】４名

■観察会の概要

河北潟は、石川県中部にある潟湖です。河北潟にはツバメがねぐらをつくる場所が２ヶ所あり、リーダーが下見を行い、観察場所を決めています。今回は、集合場所の漕艇競技場前から徒歩10分程、東部承水路のヨシ原がねぐらとなりました。

日本野鳥の会石川では、15年ほど前から河北潟でのツバメのねぐら入り観察会を続けています。

▲ヨシ原の様子をパソコン画面に映す

■観察会の様子

この日の参加者は57名。集合場所には子どもたちから年配の方まで幅広い年代の方が集まっていました。

受付では、財団発行の「ツバメのねぐらマップ」や「子育て見守りハンドブック」を配布していただき、リーダーの挨拶の後、財団から参加者の皆さんに説明する機会もいただきまし

た。
　観察場所は、承水路沿いの土手の上で、目の前にヨシ原が広がるとても観察しやすい環境でした。参加者は土手の上に横一列に広がり、ツバメが集まるのを待っていました。
　子どもたちが参加していたこともあり、リーダーは、手に取ることのできるミシシッピアカミミガメの卵の殻を紹介したり、望遠鏡とパソコン画面をつなぎ、サギ類の群れを映したりしていました。
　日の入りが近づくと、河北潟の周囲一面に広がる田んぼから、ツバメが集まりだしました。背後の田んぼからヨシ原へ向かうツバメは、参加者をかすめるように飛んでいきます。その数は見る見るうちに増え始め、下を見ればヨシ原すれすれを飛び交う大群、上を見れば空を舞う大群。そして上空からヨシ原に向かってツバメが次々に落下していきました。
　およそ１０万羽は集まっていたと思われる今回のねぐら入り。参加者からは歓声とともに「1人で見ていたら怖いぐらい」との声も上がっていました。最後は参加者から起こった感動の拍手とともに終了しました。

▲夕焼けをバックにツバメを観察

■まとめ
　すぐ傍を通過するツバメや空を舞う大群など、ツバメのねぐら入り観察の醍醐味を存分に体験できました。
　前日の下見よりもツバメの数が増えていたそうですが、観察会後にもう一方のねぐらを確認されたリーダーによると、ツバメはそちらでもしっかりとねぐら入りをしていたそうです。つまり今回は渡り途中の新しい群れが加わっていたようです。
　この夏、普及室主催の観察会の下見で、多摩川のねぐらに何回か通いましたが、ツバメの規模やねぐら入りの様子は毎回異なっており、ハラハラさせられました。場所によっては日毎にツバメがねぐらの位置を変えるなど、難しさも付きもののねぐら入り観察会ですが、今回の観察会を通して改めてその素晴らしさを感じました。

（普及室／堀本理華）

◆2016 年「全国ツバメのねぐら入り観察会」報告

この夏の「ツバメのねぐら入り観察会」の参加者状況はいかがだったでしょうか。

今回普及室では、『おさんぽ鳥図鑑』などの小冊子にお申込みいただいた 40,000 名（会員ではない方）に対して、パンフレット「探鳥会のご案内」の郵送やメール送信等により、「ツバメのねぐら入り観察会」の広報をおこないました。

探鳥会終了後に 9 支部からご協力いただき、当日の参加者名簿から、広報の成果を調べました。その結果、会員外の参加のうち、平均して 4 割が「探鳥会のご案内」やメールを見て参加されていることが分かりました（表 1）。平均して 3 割であった今年のバードウィーク「全国一斉探鳥会」と比べ、当会の広報による参加の割合が高くなっていました。

「探鳥会のご案内」やメールは、財団が発行している小冊子に申し込んでくださった方にお送りしています。皆さんの地域で小冊子の申込者を増やすことが、会員ではない方への集客につながります。

財団ではそのために、小冊子に申し込むためのプレゼント葉書や、プレスリリース資料を用意しています。プレゼント葉書を設置できるお店や施設、イベント、またプレスリリース資料をお渡しできる記者の方などの情報がありましたら、普及教育グループまでお知らせいただけますと幸いです。

普及教育グループ
TEL：03-5436-2622
E-Mail：nature@wbsj.org

（普及室／堀本理華）

表 1　当会の広報による参加者

支部	日程	開催場所	会員外の参加者数（人）	当会の広報を受け取っている人数※（人）	割合（割）
奥多摩支部	8/6	多摩川	55	38	7
栃木	9/3	渡良瀬遊水地	112	32	3
石川	8/20	河北潟	37	11	3
愛知県支部	7/24	ほら貝池	27	13	5
大阪支部	8/3	赤坂下池	22	9	4
〃	8/6	牧野	36	21	6
和歌山県支部	8/7	紀ノ川	32	16	5
ひょうご	8/6	加古川	31	15	5
鳥取県支部	8/7	中海	21	7	3
広島県支部	8/7	八幡川	36	12	3

※同伴家族を含む

◆愛知県支部からの情報

10/1-2 の中部ブロック会議で愛知県支部の会員さんたちとお話しする機会がありました。その中で、「新井さんに誘われて支部の活動をしている」という方が数名いらっしゃいました。新井さんご本人に聞いてみると、日頃から人材確保を意識して活動されていること、そのことをテーマに原稿をお寄せいただきました。

「探鳥会案内人や支部役員の人材確保について」

愛知県支部の会員は 1,109 名（９月１日現在）で、全国的にもかなり会員の多い支部です。組織を維持・管理するには、それなりの人材が常に各部署に必要です。

無論「野鳥の会」は趣味の集団です。なので支部役員の中心的な方や主力案内人（探鳥会リーダー）であっても、気に入らない事があったら、突然辞めてしまう事が多々ありますが、誰も文句は言えません。残ったメンバーが何とかやりくりを行って、急場を凌いでいるのが現状です。

そこで、新しい役員や案内人になってくださる人材探しには、日頃から目を配るようにしています。担当以外の探鳥会にも出来るだけ参加し、参加者と積極的にコミュニケーションをとり、それとなくその方の特技や引き受けていただける可能性について探っています。

以下の４点を中心に情報収集を行っています。

① パソコン能力（中年以上でも堪能な人はいます）

役員や案内人になっていただくには、パソコン能力が不可欠です。メールが出来ないとコミュニケーションも取りづらいです。

② コミュニケーション能力

聞き取りやすく分かりやすい話をしてくれるかどうか、また思わず引き込まれる話題を持っていると最高です。

③ 作文能力

役員や案内人は、文章を書く機会も割とあります。探鳥会で依頼した感想文も参考にさせてもらいます。

④鳥や探鳥地の知識

これは鳥見の経験や行動力でも分かりますが、大体の皆さんは謙虚です。

その一方で、現在、支部で人手が足りなくて困っている役割の情報収集も心がけています。役員会や案内人交流会等に出席して、そうした情報を集めています。

このような努力がある程度実り、引退される案内人や役員の後釜確保に結び付けています。

事例ー１

三宅島宿泊探鳥会に参加された方が、仕事で経理を担当されていると伺い、
「ぜひ支部の経理を担当していただけないか」
と優しくお誘いをしました。

結果、彼女は支部会員になっていただくと同時に経理もしていただいています。

事例ー２

ある探鳥会で、最近鳥の写真を撮るようになったという方とお話する機会がありました。鳥の話についても良く知っていましたので、
「探鳥会案内人になっていただけないか」
とお誘いしました。

はじめは「とても出来ない」というお答えでしたが、「まずはコースの道案内から」とお願いし、結果、来年から案内人に登録し、翌年に主力案内人となっていただく予定です。

これからも私は、組織向上のため人材確保を行っていきますが、参考になりましたでしょうか？

（愛知県支部副支部長／新井武夫）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年８月分）

８月は 64 支部からご報告をいただき、計 164 回の探鳥会が開催され、のべ 3,496 人が参加されました。

表 1. ８月の探鳥会保険集計結果（2016 年９月 14 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	0	0	0	0	0
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	−	−	−	−	−
道北支部	2	9	2	2	13
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	51	15	6	72
小樽支部	2	7	6	2	15
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	7	3	3	13
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	9	10	2	21
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	13	7	2	22
秋田県支部	3	26	6	3	35
山形県支部	1	10	3	1	14
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	4	6	4	14
北上支部	1	10	0	1	11
宮城県支部	2	31	17	5	53
ふくしま	2	38	2	3	43
郡山支部	2	23	5	6	34
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	0	0	5	5
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	18	14	1	33
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	7	51	30	12	93
栃木	−	−	−	−	−
群馬	5	40	41	19	100
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	6	123	45	39	207
千葉県	5	55	18	21	94
東京	13	367	30	69	466
奥多摩支部	5	88	82	22	192
神奈川支部	6	57	23	18	98
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	1	16	1	1	18
石川	3	27	57	10	94
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	−	−	−	−	−
軽井沢支部	1	3	4	1	8
諏訪支部	1	8	11	3	22
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	34	3	5	42
富士山麓支部	1	5	5	3	13
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	13	2	2	17
南富士支部	2	31	25	3	59
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	2	24	2	5	31
遠江	2	47	11	5	63
愛知県支部	7	48	18	17	83
岐阜	−	−	−	−	−
三重	1	6	14	1	21
奈良支部	3	46	5	6	57
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	3	11	14	6	31
京都支部	3	33	28	6	67
大阪支部	12	159	81	47	287
ひょうご	4	35	64	19	118
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	14	34	3	51
島根県支部	1	3	2	1	6
岡山県支部	3	39	43	9	91
広島県支部	3	26	49	9	84
山口県支部	2	14	38	5	57
香川県支部	2	57	27	3	87
徳島県支部	5	55	23	5	83
高知支部	1	5	7	1	13
愛媛	4	49	19	7	75
北九州	1	7	0	1	8
福岡支部	6	49	17	12	78
筑豊支部	3	28	3	3	34
筑後支部	0	0	0	0	0
佐賀県支部	0	0	0	0	0
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	3	34	12	4	50
大分県支部	1	16	12	2	30
宮崎県支部	3	16	3	3	22
鹿児島	2	36	4	8	48
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	164	2,031	1,003	462	3,496

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■お待たせしました！「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の募集を開始します■

10月に神戸で開催する西日本版に続いて、1月に八王子で東日本版を開催します。
みなさまのお申し込みをお待ちしています。

◆実施概要
＜時　期＞ 2017年1月28日（土）13:00
～29日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に
関わっている方
＜定　員＞ 50名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000円（1泊2日）
＜プログラム＞

1日目
13：00　受付
13：30　オリエンテーション
ワールドカフェ
「探鳥会について話そう（仮題）」
15：00　アイスブレイキング
15：30　全体会
移動、会場セッティング
16：00　第1分科会
18：00　チェックイン、休憩
18：30　夕食
19：30　懇親会
23：00　終了

2日目
7：30　朝食、チェックアウト
8：30　全体集会
8：45　第2分科
10：15　休憩、移動
10：30　全体集会
12：00　終了

28日　分科会A（1日目）

A-①「入会につながるインターネット活用術入門」　手塚功（栃木）

探鳥会をはじめとする会の活動について、より多くの人に関心を持ってもらおうとするとき、重要になってくるのが広報です。インターネットが普及した現在、ホームページやＳＮＳ（Facebook、Twitterなど）の活用は必要不可欠といっても過言ではないでしょう。インターネットを活用する支部が増えれば増えるほど相乗効果が生まれ、会の発信力は高くなるはずです。

この分科会では、これらメディアの開設や活用方法を初歩から説明・ご紹介し、集客や入会につながる情報発信方法について考えます。

A-②「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」　石井隆（神奈川支部）

探鳥会では野鳥を識別して楽しむという楽しみ方があります。しかし識別して終わりではなく、その野鳥の行動を詳しく観察する楽しさをきちんと伝えていく必要があると思います。そして探鳥会に参加した人たちが、普段から野鳥の行動を観察、記録して、多くの観察記録を集積する事で、その地域の生物多様性を保全する仕組みが見えてくるのではないかと思っています。

神奈川支部で行ってきた、「野鳥の行動観察データベース」の取り組みから、探鳥会から生物多様性保全への道筋を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

29日　分科会B（2日目）

B-①　「川の上流から下流までをリレー探鳥会でつなごう！たまりゅう（多摩川流域合同探鳥会）のご紹介」
黒田清恵（神奈川支部）
蒲谷剛彦（奥多摩支部）

2015年11月8日から翌年3月13日までに全5回で「たまりゅう」（多摩川流域合同探鳥会）を行いました。（奥多摩支部、神奈川支部共催）この探鳥会は、東京都、神奈川県、埼玉県を流れる一本の川を上流から河口までを見て歩く「リレー式の探鳥会」として開催されたものです。お互いの支部会員が相互に参加し合い毎回賑わっていました。「川」という大きな自然の単位を扱ったこと、そのために複数の支部が共催という形をとったことなど、他のブロックでも展開可能な手法だと思います。
ここでは、「たまりゅう」を企画した担当者から、企画への思いや苦労話、成果などについてお話しします。

B-②　「営業のプロが伝授！参加者が入会したくなる探鳥会運営」
樋口公平（神奈川支部）

現在全国で展開中の「会員を増やすための探鳥会」。参加者に十分楽しんでもらえたはずなのに、なぜか「お試し入会」してくれる人が少ない。こんなお悩みを抱えているリーダーの皆さん、この分科会でどうしたら参加者がその気なってくれるか一緒に考えてみませんか？
この分科会では、「マインドフロー」という営業の基本スキルを参考にした探鳥会運営をご提案します。その他、参加者の皆さんが探鳥会の現場で効果を実感したノウハウをみんなで共有化しましょう！

B-③　「有明海の現状とラムサール条約」
中村さやか（佐賀県支部）

昨年、有明海に2つのラムサール登録湿地が生まれました。肥前鹿島干潟と東よか干潟です。これらの干潟は、渡り鳥の一大渡来地として国際的にもその重要性が高く評価されてきました。これに既に登録されている荒尾干潟を加えて、有明海のラムサール登録地は3つ。現在では、登録湿地を抱える佐賀市、鹿島市、荒尾市が県を超えた交流が始まっています。
行政レベルでの活動の他に、バードウォッチャーがどのようにラムサール湿地を盛り上げていくことができるのか、皆さんのお知恵をお借りしたいと思います。

【申込方法】
■参 加 費：10,000円
■振 込 先：
銀 行 名　三井住友銀行
支 店 名　目黒支店
口　　座　（普）６９７９９４８
口座名義　公益財団法人　日本野鳥の会
理事長　佐藤　仁志
※振込時は　ザイ）ニホンヤチヨウノカイで大丈夫です。
■申込方法：
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tanchou-kantou2017

■申込期間：
2016年10月18日(火)～ 12月31日(土)
（定員になり次第締切）

＜お申込のみに関するお問合せ先＞
（お申込以外のお問合せは財団普及室へ）
㈱南海国際旅行
TEL：03-3543-3272（担当：松山）

【その他フォーラム全般についてのお問い合わせ】
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇九州以南にヤマセミはいるか？

野鳥誌 11 月号の特集が種子島になりました。島に住む会員の方に種子島の鳥について書いていただけたので、興味深く拝見しました。新版では、野鳥の分布を示すために「旧北区・東洋区」や「南西諸島」という言葉を用いていますが、屋久島や種子島などから成る大隅諸島は旧北区ではほぼ南限、南西諸島では北限に位置します。そこにどんな鳥がいるのか？いないのか？はとても微妙かつ重要と思われますが、屋久島以外はあまり調べられていないのです。

例えば、この連載の 2015 年 6 月号では『新・山野の鳥』改訂版のトビの分布を、「九州以北」から「屋久島以北」に直したと書きました。『フィールドガイド日本の野鳥』も増補版までは「九州以北」でしたが、増補改訂版（2007 年）で「屋久島以北」に修正したことに揃えたわけです。この度野鳥誌用にいただいた原稿に、種子島でも普通にトビがいると書かれていたので、安心しました。

多くの図鑑で「全国」とされて南西諸島が無視されている分布の記載、「九州以北」とされて大隅諸島が配慮されていない種が少なくありません。新版や『新・山野の鳥』ではトビのほかにも、ホトトギス、キジ、ヒガラ、カワガラスなどは屋久島以北としています。ミソサザイは増補改訂版まで「種子島以北」になっていましたが、新版で「屋久島以北」に直しました。

大隅諸島での分布については、新版が準拠した日本鳥類目録改訂第 7 版でも疑問点があります。ヤマセミは屋久島、種子島ともに留鳥で繁殖しているような記載になっていますが、近年の記録は確認できず、新版では悩みながらも九州以北としました。また、新版では目録 7 版に準拠して大隅諸島で夏鳥としたアカヒゲですが、私が知る限り、近年は見られていません。野鳥誌 11 月号用の原稿では、20 年ほど前から観察例がないと書かれていました。

◇新たなご指摘に感謝とお詫び

新版は、島にも、目録以外の情報にも目配せをしてきたつもりですが、申し訳ないことに見落としもありました。新版に対していただいた新たなご指摘から、お詫びすべき２箇所について書かせていただきます。

P307 の「珍しい種や識別が難しい種の記録」で、細部のチェックポイントの例を書いています。その 6.で「ヒメウタイムシクイ属」が「ヒメウタウイムシクイ属」と書かれていることに、この連載の読者が気づいて下さいました。この属や種を掲載した P334 では間違っていませんが、P307 はこれまで見過ごされてきたことになります。ご指摘に感謝するとともに、皆様にはお詫び申し上げなくてはなりません。

また、新版では P320 にミナミクイナを追記しましたが、その分布図が示す分布域は狭くないか？と日本野鳥の会埼玉、野鳥記録委員会の榎本秀和さんからご指摘いただき、その通りであったこと、重ねてお詫び申し上げる次第です。

新版でアジアの分布域の参考文献としたのは、以前も紹介した Mark Brazil による『Birds of East Asia』 です。Brazil 氏は私がウトナイ湖サンクチュアリのレンジャー時代にボランティアで手伝ってくれた縁もあるのですが、この著作は 2007 年増補改訂版以後に発行され、知見や情報が新しい上に、島ごとの分布も示す努力がされているなど比較的細かい配慮がされていたからですが、今回改めて『Birds of EastAsia』を見直してみると、ミナミクイナでは分布図の地図自体が中国南部までしかカバーしていませんでした。新版ではさらに南西に広がる地図を使いながら、東南アジアに広がるミナミクイナの分布域（フィリピン、ボルネオ、マレー半島など）に着色してありませんでした。

サバンナシトドの分布と地名の訂正（5 月号参照）ではホームページ掲載のほか、正誤表を入れる措置もしましたが、その他のご指摘については、いつ、どのように公表すべきかを検討中です。間違いとまでは言えない箇所、訂正するとかえって誤解や混乱の元になりそうな箇所もひとまとめにして整理する必要があるので、現時点では２刷り発行の段階でホームページなどで公表したいと考えています。

ところで上記のようなありがたいご指摘には感謝しきれない一方で、新版の読者カードには今も「増補改訂版とあまり変わっていない」というご意見がしばしば書かれています。多々修正はしましたが、あまり変わったようには見えないように変えてきた努力が報われた面もあると思って自ら慰めていますが、新版では東南アジアの分布もかなり修正しました。新版とその前の増補改訂版がお手元にある方は、例えばヨシゴイ、アカガシラサギ、クロハラアジサシ、オーストラリアセイタカシギなどの分布図を見比べると、違いに気づいていただけると思います。

◇いわき支部と熊本県支部の目録

前回、京都支部と日本野鳥の会群馬による鳥類目録を紹介しましたが、いわき支部も『いわき鳥類目録 2015』を発行されていました。1種でもさまざまなカットの写真を用いたり、類似種を並べて識別点を示したりと、図鑑としても役立つように工夫されていました。

今年８月には、熊本県支部が『熊本県鳥類史（熊本県産鳥類目録）』を発行されました。神奈川支部による『神奈川の鳥 2006-10』と同じようなボリュームがあり、『神奈川の鳥』同様に付録でデータベースが付いています。約 20 万件ものデータを精査されたそうですが、すべてがボランティア作業のはずですから、頭が下がる思いです。

まだ、さっと眺めただけですが、目録としてのクオリティに加え、目や科の解説があることに感服させられました。『フィールドガイド日本の野鳥』の優れている点として、種の解説の前に目や科の解説があると以前書きましたが、新版では、その書き直しだけでも時間と労力を費やしました。例えば目や科の特徴、種数などは分類によっても諸説あり、新たな説を調べるにも、諸説からどれを選択し、限られた文字数でどこまでをどう書くかなど、簡単ではありません。記録の精査や取りまとめなどの目録本来の作業とともに、解説の充実という面でも大変なご苦労を積み上げられたものに違いありません。

（普及室／安西英明）

▲新版で谷口高司さんに直していただいた図版の例で、今回はバライロムクドリ。
冬羽（中）、幼鳥（右）が微修正されています。増補改訂版で追記した際、日本では成鳥夏羽は見られないだろうから画像は不要との声もありましたが、大阪支部報によると、今年の６月末に成鳥夏羽が見られたそうです。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 10 月号の電子メール版の購読者数は、3 名増えて 845 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表 2. 探鳥会スタッフ通信 10 月号電子メール版の購読者数（2016 年 10 月 12 日現在）

支部	購読者数		支部	購読者数
小清水	1		福井県	10
オホーツク支部	6		長野支部	2
根室支部	0		軽井沢支部	2
釧路支部	2		諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70		木曽支部	1
旭川支部	4		伊那谷支部	1
滝川支部	1		甲府支部	4
道北支部	1		富士山麓支部	0
江別支部	0		東富士	0
札幌支部	4		沼津支部	3
小樽支部	3		南富士支部	2
苫小牧支部	2		南伊豆	2
室蘭支部	5		静岡支部	2
函館支部	0		遠江	12
道南桧山	2		愛知県支部	33
青森県支部	1		岐阜	5
弘前支部	4		三重	19
秋田県支部	3		奈良支部	3
山形県支部	5		和歌山県支部	5
宮古支部	1		滋賀	19
もりおか	5		京都支部	31
北上支部	2		大阪支部	26
宮城県支部	39		ひょうご	17
ふくしま	4		NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1		島根県支部	10
二本松	1		岡山県支部	23
白河支部	2		広島県支部	8
会津支部	2		山口県支部	4
奥会津連合	0		香川県支部	6
いわき支部	1		徳島県支部	6
福島県相双支部	0		高知支部	1
南相馬	0		愛媛	13
茨城県	21		北九州	12
栃木	45		福岡支部	11
群馬	25		筑豊支部	21
吾妻	1		筑後支部	6
埼玉	37		佐賀県支部	5
千葉県	18		長崎県支部	1
東京	55		熊本県支部	14
奥多摩支部	47		大分県支部	3
神奈川支部	20		宮崎県支部	4
新潟県	2		鹿児島	3
佐渡支部	1		やんばる支部	0
富山	3		石垣島支部	1
石川	29		西表支部	2
			合計	845

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今月末より「会員を増やすための探鳥会（初心者向けバードウォッチング）」が始まります。先陣を切るのは 10/30 の群馬と大阪支部です。開催地の皆さま、どうぞ宜しくお願い致します。秋らしくなり、気持ちの良い季節になってきたので、他の支部でも探鳥会には多くの方が参加されることと思います。多くの参加者に楽しんで頂きたいですね！

また、同じく 10/29-30 には「探鳥会リーダーズフォーラム西日本」も開催されます。こちらもご参加の皆さまの活発な交流を期待しております。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 43 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016 年 10 月 14 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org